

## 東京大学経済学部資料室での研修を受けて

白井 亨

### 1. はじめに

2011年10月17日から20日に東京大学経済学部資料室で研修を受けさせていただきました<sup>1</sup>。簡単にその経緯を述べますと、私が所属する京都大学経済学部経済資料センター(旧:調査資料室)では、従来、統計書や白書といった政府刊行物などの日本経済の現状分析を行うための資料を中心として収集してきました。ただ、急速な情報化などにより研究環境をめぐる状況は大きく変化したため、研究支援組織として調査資料室がどうあるべきか、組織の改組など様々な議論が行われ、その結果、2011年6月をもって経済資料センターとして改組されました。この改組に伴い、センターの業務は、従来からの図書業務とともに、京都を中心とする企業や経済団体の資料を収集するアーカイブズ業務が重要な柱の一つとなりました。現在、当センターは堀和生センター長、岡田知弘副センター長、渡辺純子副センター長のもと、助教1名、非常勤職員2名の体制で運営されています。

この新たな業務の進め方については現在試行錯誤の段階にあります。東京大学経済学部資料室でも、当センターと同じような業務であったものを、現在では企業や経済団体の資料の収集などといったアーカイブズ業務が大きな柱の一つとなったと聞いています。そこから学ぶべきことが多いのではないかと考え、職員に対する研修を受けさせてもらいた

いと堀センター長から依頼し、このたびの研修となりました。この研修を受けることにより、今後のアーカイブズ業務を遂行する上での有益な情報を得ることが期待されました。

### 2. 実際の研修を受けて

研修はあらかじめ作成されたカリキュラムに基づいて実施されました。

#### 2.1. 研修初日

初日は、まず資料室の概要や、施設の見学があり、実際の資料の利用方法についてお話をうかがいました。資料室の歴史的経緯や業務の内容など当センターと似通った部分もありますが、貴重書を扱っている点や経済学図書館を含めた資料の修復作業や保存作業に力を入れている点など大きな違いもあります。とくに、資料の脱酸処理や燻蒸の設備を整えていることに感心しました。資料の燻蒸作業がカリキュラムに含まれており、実際に体験することができ、どのような手順で作業が行われているのかがよくわかりました。当センターにおいても昭和20年代から30年代に刊行された政府関係の報告書の多くは酸性化が進んでいるため、早急な対応が求められています。もちろん、当センターでこのような設備を持つことは現状では不可能ですが、修復作業のスペシャリストを育てることであれば可能ではないかと感じました。

閲覧業務に関しては資料を慎重に扱っていることやその運用方法がよくわかりました。

<sup>1</sup> 【編集部注】研修内容の詳細については本稿末尾に掲載した。

当センターは現在のところ資料の利用にあたっては、従来通りの方法を変更していませんが、今後アーカイブズ関係の資料が増えれば、資料に合わせて利用方法を変更することが必要だと感じました。

最後にアーカイブズ業務を行うに当たっての法令や権利関係についての講義があり、実際に資料の受け入れ、保存、公開等に当たりどのような法的な根拠で行っているのかを理解しました。この業務を行っていく際にはきちんとした対応をとる必要があることを痛感しました。今後起こりうる問題を想定しながら整備していく必要性を感じています。

## 2.2. 研修 2 日目

2 日目は、前日の法令と諸権利の続きの講義から始まり、引き続いて、記録材料と記録媒体について講義いただきました。これまで、資料のモノとしての性質に目を向けてはいませんでしたので、参考になりました。また目録をとる際に記載されている情報を基に記述しがちですが、実際に記録されている材料を見ることが大切だということがよくわかりました。

プリザベーションマネジメント論の講義では、資料の保存について、どのような考え方のもとで行い、実際の作業を進めていくかをお話いただきました。このような観点から、資料を見ていないということを痛感し、今後、資料の保存をどのように進めていけばいいのか、まず資料の状態がどうなっているのかをきちんと把握したうえで、実際の対応をとっていく必要性を感じました。

午後からは、記録史料調査論の講義を受けさせていただきました。史料調査がこれまでどのように行われ、その考え方がどう変わっ

てきたのか、そして現在の史料調査が、調査者の立場からではなく、史料の立場から調査や整理を行うという考え方にに基づき、実際の作業が行われているのかがよくわかりました。史料調査を行うかどうかは未定ではありますが、もし今後そのような作業が発生することがあれば、その原秩序に配慮しつつ史料を扱う必要があるということを頭に入れておきたいと思います。

「修復作業の実際」では、破損などしている資料をどのように修復しているのか、実習を通じて教えていただきました。現在の建物に移転する前は、もともと書庫ではないスペースに書架を立て一部の資料を置いていたこともあり、資料の状態が非常に悪く、早急な対応が求められています。このような保存状態の悪い資料について、改めて修復等の対応の必要性を感じ、具体的な修復方法は非常に参考になりました。教えていただいた情報をもとにして、少しずつでも作業を進めていきたいと考えています。

最後にアーカイブズ業務を行っていく際に参考となるような辞書や参考書についての講義がありました。アーカイブズ資料には手書きの資料もあり、それらを読み取る必要がありますが、その際に参考となる辞書や、漢字に関する辞典類、歴史に関する事典など、様々な辞典・事典の特性や利用の便などを教えていただき、今後の参考にしていきたいと思っています。

## 2.3. 研修 3 日目

3 日目は、まず、前日の記録史料調査論を受けて、史料調査の実習を受けました。実習では、東大経済学部の初代学部長である金井延の資料が対象でした。箱に入っている資料

の現状がどうなっているのかを、写真を撮影するとともに、各自がスケッチすることにより元の状態に戻せるように把握を行った上で、資料の内容について簡単に記録する、という作業を行いました。研究者にとって、一点一点が貴重な資料で、とても興味深いものでした。どのように記述すればいいのか非常に悩むところでしたが、最初の段階においては、その資料がどういったものなのかを把握することが重要だということがよくわかりました。

続いて、「企業資料とは何か」という講義では、図書とアーカイブズ資料がどのような点で異なるのか、また企業資料の区分について、経営資料や、業務用資料、調査資料といった組織内部で作成される資料と、外部に向けて作成される資料に分けられること、それらの性質について理解できました。また、資料室で所蔵されているアーカイブズ資料にはどのようなものがあるのか、実際に書庫にある山一証券の資料など案内していただきました。

#### 2.4. 研修4日目

最終日は、まず、記録資料の目録論の講義を受け、引き続き目録作業の実習を行いました。アーカイブズ資料の目録の方法は、図書館目録法とは違い、資料室でも様々な方法を参考としながら独自の方法で目録をとられています。実習では、学生が作成した目録を資料を見ながら修正していくという作業を行いました。資料がどのように記述されているのか、どのような単位で採録するのか図書や雑誌とは法則が異なっているので、把握するのはなかなか難しかったですが、とても参考になりました。当センターでも各企業・経済団体に対して資料寄贈の依頼を行い、実際に資

料の寄贈を受けたり、資料の寄贈が不可能な場合には一定期間複写等で資料をお借りしています。これらの資料の整理では、東大の方法を参考にしながら目録作成の作業を進めているところです。

午後からは、企業史料協議会主催の「ビジネスアーキビスト研修講座」があり、東京大学経済学部の武田晴人教授が講演されるということで、参加させていただきました。企業の発達と企業活動に伴い生み出される様々な資料について、貴重なお話を聞くことができました。講演後は、先生の研究室にお伺いし、今後資料の収集にあたり、情報収集の方法や注意すべき点などについてアドバイスをいただきました。

最後は、収蔵庫の見学をしました。資料室では、博物館資料も扱っており、所蔵・管理されている古貨幣・古札と貴重書を拝見いたしました。普段は目にすることのできない貴重な資料類を見せていただき、とても興味深い体験をいたしました。

#### 3. 最後に

このような研修は初めてだとお伺いしましたが、研修のカリキュラムをきちんと作成され、決して初めての研修のように思えませんでした。一つ一つの内容が有意義なもので、アーカイブズ業務を進めていく上で、非常に参考になるお話をうかがうことができました。この研修で得た経験を活かしていきたいと思います。これからも様々な情報を交換していければと考えています。

また、資料室に所属されているみなさんが、それぞれご自分の研究分野を持ち研究成果を上げながら、本来の専門ではない業務をされていることに驚きを覚えるとともに、私自身、

図書業務やアーカイブズ業務に携わりながら、自分の研究をきちんとしなくてはとの思いを強くしました。

最後になりましたが、お忙しい中、研修をしていただいたことに深く感謝いたします。

さらに、私だけではなく、時期は違いますが、当センターの二人の非常勤職員の研修も受け入れていただきましたことも、重ねて感謝いたします。

(しらい とおる:京都大学大学院経済学研究  
科助教)

#### 【編集部附記】

白井報告にあるように、京都大学経済学部経済資料センターからの協力要請が東京大学経済学部資料室にあり研修を受け入れることとなった。これまでも小規模な研修の受入はあったが、1週間近くにわたる研修の受入は当室にとっても初めての経験であった。なおかつ、外部機関の今後に大きく関わる内容であり、室員一同、どのように進めるべきか試行錯誤した。

結果として、現在の当室の状態をありのままお伝えしようと、カリキュラムを組み、室員で講師を分担し講義と実習の組み合わせで一通りのことが伝えられるよう考えた。なお、経済学図書館の見学も組み入れ、図書館職員にも一部担当を分担してもらっている。これは、我々にとっても普段行っている業務の再確認という意味で大変よい経験となった。このように当該研修は受入側の当室にとっても貴重な経験であり、できれば記録に残しておきたいと考え、白井さんに受講報告の執筆をお願いした。白井さんにはお忙しい中、原稿を寄せていただき心より感謝申し上げます。併せて、京都大学経済学部経済資料センターの今後の発展を心より祈念したい。

なお、白井報告にもあるように、別途2012年1月16日から18日の日程で、同センターの2名の非常勤職員についても研修を受け入れた。こちらは実務的な内容を中心としてコースを分けてカリキュラムを組んだ。

次頁に参考までに2回分の研修カリキュラムの記録を掲げる。

【第1回】平成23(2011)年10月17日(月)～20日(木)実施

日	コマ	内容	担当	概要
10月17日(月)	1	資料室の概要説明	小島	東京大学経済学部資料室の概要説明
	2	資料室の施設と設備	内田	小島ホールの諸設備・施設の実地見学
	3	図書館の概要説明と見学	濱田・西村	東京大学経済学図書館の概要説明と施設の実地見学
	4	資料の受入と燻蒸実習	小島・矢野・内田	二酸化炭素燻蒸装置の概説と実際の稼働までを実習
	5	閲覧業務の実際	内田	アーカイブズの閲覧についての概説と実際
	6	法令と諸権利	小島	アーカイブズを公開する際に生ずる権利関係と法的問題の整理
10月18日(火)	1	記録材料と記録媒体	小島	モノとしての素材レベルからの資料の検討
	2	プリザベーションマネジメント論	矢野	管理者の立場からの保存についての考え方の概説
	3	記録史料調査論	富善	アーカイブズの実地調査と記録、概要目録の作成までの概説
	4	修復作業の実際	設楽	東京大学経済学部資料室における修復作業の実際
	5	辞書と参考書	小島	調査・研究に必要な辞書・事典類の基礎
10月19日(水)	1	記録史料調査実習	富善	記録史料調査論を受け、実際の史料で実習する
	2	社史と企業史料	矢野	社史と企業史料についての概説
	3	記録史料目録論	小島・矢野・内田	記録史料の目録作成についての概説
10月20日(木)	1	記録史料目録作成実習	小島・矢野	記録史料目録論、実際の史料で実習する
	2	企業史料協議会ビジネスアーキビスト研修講座 企業制度の発達と史料	武田	
	3	収蔵庫見学	小島	貴重図書および古貨幣の実地見学

【第2回】平成24(2012)年1月16日(月)～18日(水)実施

日	コマ	Aコース		Bコース		備考
		内容	担当	内容	担当	
1月16日(月)	1	資料室の概要と見学	内田	資料室の概要と見学	内田	A・B両コース共通
	2	修復・保存業務の実際	矢野・設楽	記録史料調査論・実習	富善・小島	
1月17日(火)	1	資料の受入と燻蒸・脱酸実習	小島・設楽	社史と企業史料	矢野	
	2			社史収集業務の実際	内田	
	3	修復実習	内田・設楽	記録史料目録作成実習	小島・矢野	
1月18日(水)	1	経済学図書館の概要と見学	濱田・西村	経済学図書館の概要と見学	濱田・西村	A・B両コース共通
	2	収蔵庫見学	小島・富善	収蔵庫見学	小島・富善	